

| | |
|--|---|
| 氏 名 | 和泉 順子（教授） |
| こんな研究 をしています | 情報通信技術は今や社会基盤の一つとして普及発展しています。しかし、時代や社会動向に依存して技術的な開発・設計の方向性、あるいは問題意識や倫理的視点は様変わりします。仮想世界の情報が現実世界に大きな影響を与えるようになった今、情報はどのように保護や制御される必要があるのか、セキュリティや国際技術標準などの観点から国際社会との連携や協調を含め研究を続けています。 |
| こんな成果 を挙げています | <ul style="list-style-type: none"> - 『DX デジタルトランスフォーメーション事例 100 選 第 4 章第 3 節 エストニアの電子政府』, 鈴木 淳一（著, 監修）, エヌ・ティー・エス, 2023. - 和泉 順子, 「エストニアにおける電子政府関連サービスの社会展開に関する調査報告」, 異文化, 2020. - 和泉 順子, 桂田 浩一, 児玉 靖司, 重定 如彦, 滝本 宗宏, 入戸野 健, 山口 和紀 監修, 『情報学基礎』, 培風館, 2020. - 和泉 順子, 櫻井 茂明, 中村 文隆, 『情報システム概論』, サイエンス社, 2018. - 和泉 順子, 「第 20 回 ITS 世界会議参加報告」, 日本ソフトウェア科学会論文誌「コンピュータソフトウェア」, Vol31, No. 2, pp.33-37, 2014. - M. SATO, M. IZUMI, H. ITO, K. UEHARA, J. MURAI, “Criteria for Privacy and Integrity Protection in Probe Vehicle Systems”, the 2011 ITS World Congress, Oct. 2011. |
| ほかに、こんな ジャンルに関心も っています | もともとの専門分野は情報通信や情報セキュリティ技術関連であり、主にインターネット上の情報分析や環境構築など工学的なアプローチになるのですが、車両の情報化など ITS 分野の研究開発やシステムの普及促進、国際標準化にも携わったことから国際文化研究としての問題整理や論理展開として、技術の社会性（社会展開）にも継続して関心を持っています。エストニアで在外研究経験から、電子政府とそれを支えるデジタル ID などの基盤技術や社会展開にも興味があります。 |
| こんな授業 を行なっています | 多文化ネットワーク論 A/B の授業で、知っておくべき計算機科学及びネットワーク技術の用語や基礎を確認します。その上で、関連分野の最新動向技術を紹介しながら、情報科学分野の技術が広く社会で使われるようになるために、どのような準備が必要なのか、何が問題でどのような解決方法が考えられるか、議論を通じて自ら考えるための授業を行ないます。 |
| 学会や社会 でこんな活 動をしています | インターネットに関連する産官学の研究プロジェクト（WIDE）に携わっています。2018 年にエストニアのタリン工科大学へ在外研究に行くまでの約 10 年間は日本ソフトウェア科学会の論文編集委員を務めた他、関連研究会の実行委員・プログラム委員なども務めました。また経済産業省基準認証研究開発事業「プローブ情報システムの匿名性・セキュリティ評価基準などに関する標準化」など、他大学・組織との共同または委託研究において情報技術の国際標準化にも携わりました。 |
| 私が思う多 文化的かつ、 インターカ ルチャラル な人物 | <p>たとえば、梅棹忠夫先生。</p> <p>日本の文化人類学のパイオニアとして知られる梅棹先生は、インターネットという名前も概念もなかった 1960 年代に「情報産業論」を発表し、情報化社会のグランドフレームを提示されています。</p> |